

第108回

全国図書館大会 群馬大会

(オンライン開催)

令和4(2022)年10月6日(木)～7日(金)

《動画配信期間》10月6日(木)～11月30日(水)

《大会ウェブサイト》<https://g-regi.jp/108th-taikai/>



大会テーマ：本と人が織りなす図書館の未来

【主催】公益社団法人日本図書館協会、群馬県、群馬県教育委員会、群馬県図書館協会（群馬県公共図書館協議会、群馬県大学図書館協議会、群馬県高等学校教育研究会図書館部会、群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会）

【共催】関東地区公共図書館協議会、茨城県図書館協会、栃木県公共図書館協会、埼玉県図書館協会、千葉県公共図書館協会、神奈川県図書館協会、新潟県図書館協会、山梨県公共図書館協会、長野県図書館協会、静岡県図書館協会、岩手県図書館協会

【後援】文部科学省、国立国会図書館、全国公共図書館協議会、国立大学図書館協会、公立大学協会図書館協議会、私立大学図書館協会、専門図書館協議会、一般社団法人日本書籍出版協会、公益財団法人文字・活字文化推進機構、図書館友の会全国連絡会 他（予定）

【連絡先】第108回全国図書館大会群馬大会実行委員会事務局

〒371-0017 群馬県前橋市日吉町1-9-1 群馬県立図書館内

電話：027-231-3008 FAX：027-235-4196

Eメール：taikai@library.pref.gunma.jp

第 108 回全国図書館大会群馬大会（全体会）

開催にあたって

群馬大会は、新型コロナウイルス感染症対策を取りつつ、全国から広くご参加いただくことができるよう、オンライン形式で開催することとしました。

かつて古代東国文化の中心地として栄え、数多くの古墳や 2017 年に『世界の記憶』に登録された『上野三碑（山上碑、多胡碑、金井沢碑）』が残されているように、群馬県では、人々の記憶や想いが長く大切に守り伝えられてきました。また、我が国の近代化を支えた生糸の一大産地であるとともに、桐生織や伊勢崎銘仙など美しい織物を生み出す地としての歴史を持っています。

108 回目の全国図書館大会を群馬県で開催するにあたり、こうした群馬の歴史や文化を背景に、テーマを「本と人が織りなす図書館の未来」としました。織物（縦糸×横糸）のように、人類の知識や記憶の集積である本（資料）と図書館に集う人々が、未来に向かって多様で豊かな図書館活動をつくり、展開していく。そんな図書館の未来を語り合える大会にしたいと考えています。

開催行事

【全体会】開会の言葉、主催者あいさつ、祝辞、基調報告、記念講演

【分科会】第 1 分科会～第 16 分科会

※ 動画配信又はライブ配信（Zoom）で実施します。ライブの日程は改めてご案内します。

【ウェブサイト】<https://g-regi.jp/108th-taikai/>

※ 大会案内、参加申込、大会動画視聴のほか、関連情報を随時発信します。

基調報告



【報告者】 植松 貞夫（うえまつ さだお）

（公益社団法人日本図書館協会理事長）

【プロフィール】 2021 年 6 月より現職。日本図書館協会図書館施設委員会委員長、日本図書館協会図書館運営委員会委員長、図書館年鑑編集委員会委員。筑波大学附属図書館長、同大学院図書館情報メディア研究科長、跡見学園女子大学文学部教授を歴任。筑波大学名誉教授。

特別報告

－著作権法の改正は、図書館サービスにどのような影響を与えるか－

「法改正の背景と諸外国における図書館の公衆送信サービスの動向と課題」（仮）

【報告者】 生貝 直人（一橋大学法学研究科 准教授）

「図書館等公衆送信サービスの開始にむけて検討状況と今後の課題」（仮）

【報告者】 小池 信彦（日本図書館協会著作権委員会委員長）

「国立国会図書館における公衆送信サービスへの取り組み」（仮）

【報告者】 調整中（国立国会図書館）

記念講演

トークセッション 若手作家が語る図書館と創作

阿部 智里 (小説家)

× 如月 かずさ (児童文学作家)

群馬県内出身で人気のある若手作家2名(阿部智里氏、如月かずさ氏)に、自らの創作活動について、作家を目指した動機、子どもの頃からの読書遍歴や図書館利用体験、出版文化への思いに触れながら語っていただきます。書き手と利用者の両面から、知識・情報を提供する図書館の存在をどう捉えているかなどを伺います。



(写真：文藝春秋)

【講師】阿部 智里 氏 (あべ・ちさと)

1991年、前橋市出身。群馬県立前橋女子高校卒。早稲田大学文化構想学部卒業。同大学院文学研究科修士課程修了。大学在学中の2012年、『鳥に単は似合わない』が史上最年少の20歳で松本清張賞を受賞し作家デビュー。デビュー作から続く壮大な異世界ファンタジー「八咫鳥」シリーズ(文藝春秋)は現在第2部へと突入し累計170万部の大ヒット作となっている。他の作品に『発現』(文春文庫)。

【講師】如月 かずさ 氏 (きさらぎ・かずさ)

1983年、群馬県桐生市生まれ。東京大学教養学部卒業。同大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。大学院では近代日本の大衆的児童文学を研究。2008年に『サナギの見る夢』(講談社)で第49回講談社児童文学新人賞佳作、『ミステリアス・セブンス』(岩崎書店)で第7回ジュニア冒険小説大賞を受賞して児童書作家デビュー。2012年に『カエルの歌姫』(講談社)で第45回児童文学者協会新人賞を受賞。幼年童話からYAまで幅広い作品を手掛ける。



【コーディネーター】金原 瑞人 氏 (かねはら・みずひと)

1954年岡山市生まれ。法政大学教授・翻訳家。訳書は児童書、ヤングアダルト小説、一般書など600点以上。訳書に『不思議を売る男』『青空のむこう』〈パーシー・ジャクソン・シリーズ〉『国のない男』『月と六ペンス』『このサンドイッチ、マヨネーズ忘れてる ハプワース16、1924年』など。エッセイ集に『サリンジャーにマティーニを教わった』など。日本の古典の翻案に『雨月物語』など。

HPは <http://www.kanehara.jp/>



(写真：根津千尋)

第 108 回全国図書館大会群馬大会（分科会）

第 1 分科会 公共図書館

テーマ：地域情報拠点としての公共図書館の方向性を考える

経済成長、地方分権の推進、情報化の急激な進展などさまざまな社会変化を背景要因として、これまで『市民の図書館』や『これからの図書館像』のような、時代に即した公共図書館の方向性を示すビジョンが語られてきた。近年は、図書館を媒体とした住民の交流によって、賑わいの創出や知的生産を目指す「場」としての図書館や、デジタルアーカイブの構築や電子書籍サービスが注目され、実践が増えている。新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、来館型サービスが困難に直面する一方、図書館のデジタルシフトは加速した。地域情報拠点として住民に求められる多様な公共図書館の機能について検討し、これからの方向性を考えたい。

【基調講演】福島 幸宏（慶應義塾大学文学部 准教授）

「図書館のデジタルシフトを改めて考える」

【事例報告】森 いづみ（県立長野図書館 館長）

「共知共創の広場を目指して：県立長野図書館の取り組み 2022」

【事例報告】中沢 孝之（白河市立図書館 館長）

「白河市立図書館 前へ、前へ！：りぶらんで、学ぶ調べる 本を読む」

【事例報告】武部 裕子（上野村図書館）

「I ターン住民を支える小さな図書館として」（仮）

【意見交換】★ライブ配信（Zoom）

第 2 分科会 大学・短大・高専図書館

テーマ：これからの読書を考える／大学生とこれからの読書環境

デジタルメディアの発達により、大学生においても読書環境が大きく変化している。インターネットや SNS、電子書籍などのデジタルツールへの移行が避けられないにしても、読書という行為のそのものが無くなることはないであろう。

この分科会では、従来の紙媒体での読みとデジタルによる読みの特性を明らかにするとともに、よりデジタル化が進む教育研究環境において、大学生の読書の在り方の変化や、彼らに対する図書館のアプローチの在り方を考えたい。

【基調講演】柴田 博仁（群馬大学情報学部 教授）

「読み書きメディアの認知科学」（仮）

【事例報告】佐藤 賢輔（東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 特任助教）

「子どもの成長と読書」（仮）

【事例報告】平山 祐一郎（東京家政大学家政学部 教授）

「大学生と読書」（仮）

【事例報告】群馬県内大学生企画・主催

「ビブリオバトル 2022 Ver.全国図書館大会群馬大会」※動画配信

【事例報告】（講師調整中）「大学向け電子教科書サービスの紹介」（仮）

【シンポジウム】★ライブ配信（Zoom）

第3分科会 学校図書館

テーマ：ポストコロナ社会における学校図書館

新型コロナウイルスの流行は、人びとの社会生活を大きく変えただけでなく学校教育及び学校図書館にも大きな影響を及ぼし、学校図書館の役割や運営について改めて問いなおす契機となった。

一方、GIGAスクール構想の急速な導入により児童・生徒の情報環境は著しく変容し、学校教育におけるICT技術の活用が大きな課題となっている。

これらの状況を鑑みて、知識情報社会と言われるポストコロナ社会における学校図書館の新たな役割について考察し、それぞれの学校の特性に応じたさまざまな実践を知ることにより、学校図書館の方向性を考える機会としたい。また、情報リテラシー教育やサードプレイスとしての役割など、今後の学校図書館に求められる課題や可能性についても考えたい。

【基調講演】野口 武悟（専修大学文学部 教授）

「ポストコロナ社会における学校図書館の方向性と可能性」

【事例報告】青木 いず美（群馬県甘楽町立福島小学校 教諭）

「地域・郷土学習資料のデジタル化を目指して：学校図書館と公共図書館の協働によってできること」（仮）

【事例報告】青木 淳（群馬県立高崎工業高等学校 学校司書）

「つなげる『場』としての学校図書館：工業高校の特性と立地を活かした図書館活動」

【事例報告】井戸本 吉紀（三重県立津高等学校 学校司書）

「気づく・学ぶ・繋がる：三重県立津高等学校の取り組み」

【部会報告】高橋 恵美子（日本図書館協会学校図書館部会 部会長）

「学校図書館とマンガ」

第4分科会 児童サービス

テーマ：子どもと家庭に本の喜びを届けるために

今、子どもの世界にデジタルメディアが広がり続けている。また、新型コロナウイルス感染症の拡大は、児童サービスにも大きな影響を与えた。子どもを取りまく読書環境の変化の中で、何が変わり、何が変わらないのか、大切なものは何なのか、今、原点に返って考える時である。

この分科会では、「図書館力は生きる力を育む」をモットーに、滋賀県草津市立図書館で豊かな実践経験を積み、滋賀県子ども読書活動推進事業にも携わる二井治美さんの基調講義と、群馬県内の図書館員、NPO代表、学校司書経験者からの事例報告を基に、皆さんと共に考えたい。

【基調講演】二井 治美（草津市立図書館館長、日本図書館協会児童青少年委員会委員、児童図書館研究会運営委員）

「今、子どもに本の喜びを届けるために」

【事例報告】續木 美和子（NPO法人「時をつむぐ会」代表、「本の家」店主）

「絵本は子どもが会える最初の文学であり芸術です。：時をつむぐ会 28年のあゆみ」

【事例報告】野村 陽子（元学校司書、絵本セラピスト、JPIC 読書アドバイザー）

「一人でも多くの子ども達に、一冊でも多くの本を」

【事例報告】園田 利恵子、蛭間 景子（桐生市立図書館）

「読み聞かせの新しいカタチ：コロナ禍での絵本とのふれあい」

【意見交換】 ※ 調整中。おって大会ウェブサイトでご案内します。

第5分科会 専門図書館

★ライブ配信（Zoom）★

テーマ：専門図書館は地域の情報資源をどのように提供すべきか

歴史資料の次世代への継承を目指し、直近の災害から歴史資料を守るだけでなく「予防ネット」の確立に向け活動を進めている群馬歴史資料継承ネットワークから、地域史料防災に関する研究を通じて歴史資料の継承の実践内容について報告をいただく。

全国唯一の繊維専門の公設試験研究機関である群馬県繊維工業試験場では、県内外の繊維関連産業の発展に寄与するための情報発信とネットワーク構築の取り組みを報告いただく。

歴史資料の継承と利活用の促進、現在の繊維産業の発展のための情報発信とネットワーク構築という2つの事例から地域の情報資源を専門図書館はどのように提供していくべきなのか考えたい。

【事例報告】築瀬 大輔（群馬県立女子大学群馬学センター准教授、群馬歴史資料継承ネットワーク）

【事例報告】五十嵐 昭（群馬県立産業技術センター繊維工業試験場）

※ 各登壇者の演題は調整中。おって大会ウェブサイトでご案内します。

第6分科会 図書館情報学教育

テーマ：社会の変化に対応した新しい「大学において履修すべき図書館に関する科目」

2012年度大学入学者から適用されている「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目」は、検討時には10年から15年程度で見直すものと考えられていた。本科目は2022年6月時点で11年目に突入しており、見直しを検討すべき時期にきている。科目制定時には想定されていなかった多くの変化に対応した新しいカリキュラムの設定が求められている。

本分科会では、図書館情報学教育部会役員による検討を踏まえた新しいカリキュラム案を提示して、実際の科目改訂時の議論につなげていくことを目指す。

【趣旨説明】大谷 康晴（青山学院大学 教授）

「新しい『大学において履修すべき図書館に関する科目』について」

角田 裕之（鶴見大学）

坂本 俊（安田女子大学）

長谷川 幸代（跡見学園女子大学）

下山 佳奈子（八洲学園大学）

第7分科会 図書館政策企画

テーマ：図書館の未来にむけて - 図書館計画を考える -

わがまちの図書館が進むべき道筋を指し示す「図書館計画」づくりが各地の図書館ですすんでいる。市民の声、現場の図書館員の声を生かして「基本計画」づくりをしているところ、計画づくりを外部機関に委ねるところ等、策定方法は様々である。市民に期待される「基本計画」とするには、図書館自身がいかに主体性をもって策定にかかわるかが重要である。

「基本計画」が市民にとって、現場の図書館員にとって、今後の図書館サービスの未来を展望できるものとするには、どのような手順で計画づくりをすすめる必要があるのか、市民が望む「基本計画」とは何か、パネルディスカッションを通して認識を深めたい。

【事例報告】山口 源治郎（東京学芸大学 特任教授）

「図書館基本計画の策定プロセスと内容の検討：日野市立図書館を事例に」

【事例報告】下司 満里子（長浜市立長浜図書館 館長）、國松 完二（元京都橘大学教授）

「広域合併、新館建設を契機とした図書館基本計画の策定」

【事例報告】山重 壮一（オーテピア高知図書館 専門企画員）

「今だからこそ、こんな図書館が欲しい！：図書館サービス計画が果たす役割とこれから」

【意見交換】進行：岡本 正子

第8分科会 図書館の自由

テーマ：図書館の自由を日常に活かす

図書館の自由委員会は、5月『「図書館の自由に関する宣言 1979年改訂」解説』第3版を刊行した。2版を刊行してから20年近くとなり、図書館を取り巻く状況も大きく変わった。個人情報保護法改正、ICTの伸展、コロナ禍による休館など、知る自由に直面する新たな事態も生じている。

今回の分科会では、解説3版の概要を説明するとともに、研究協議では、多様なトピックから、自由宣言を日常に活かすために何ができるか考える。職場で話題になってもなかなか解決が難しい問題、日々のサービスで直面する事例を出し合い、質問に答える形で、専門の方を交えて、図書館としての留意点、考え方を法的観点から整理していきたい。

【基調報告】西河内 靖泰（図書館の自由委員会委員長）

「図書館の自由・この1年」

【報告】熊野 清子（図書館の自由委員会副委員長）

『「図書館の自由に関する宣言 1979年改訂」解説』第3版の概要」

【講演】鍵水 三千男（前・千葉県市町村公平委員会苦情相談員）

「図書館の自由と法」

【研究協議】テーマ「図書館の自由・あなたの困った！をみんなで考えよう」★ライブ配信（Zoom）

第9分科会 図書館利用教育

テーマ：情報リテラシー教育の新たな実践（仮）

日本図書館協会図書館利用教育委員会では、現在、図書館利用教育ガイドライン（1998,1999）にかわる情報リテラシー教育の枠組みづくりを進めている。昨年度の図書館大会分科会においても案内したとおりである。

本分科会では、枠組みづくりに向けた情報共有と意見交換の場を設定する。すなわち、情報リテラシー教育をめぐる内外の政策的・技術的動向を把握するとともに、具体的な実践の現状や課題について検討する。当委員会作業部会において改訂を進めている、情報リテラシー教育の実践に資するワークブックである「問いをつくるスパイラル」に基づく論点も取り上げる。（予定）

【講義発表】 ※ 調整中。おって、大会ウェブサイトでご案内します。

テーマ：① 全国実態調査から分かる読書バリアフリーの現状と課題

全国公共図書館協議会、全国視覚障害者情報提供施設協会では、それぞれ 2021 年度に公共図書館、点字図書館、盲学校、大学図書館・障害学生支援部署などに対し、障害者サービスの全国実態調査を行った。回答率は 9 割以上と高く、コロナ禍前の状況も対象とした障害者サービスの実態がよくわかる調査である。これらの調査から見えてくる図書館の障害者サービスについて報告を行う。

これらの調査報告書の執筆者、調査の助言者をパネリストとして、二つの実態調査から見えてくる日本の障害者サービスの現状とこれからについてパネルディスカッションを行う。

【報告】野口 武悟（専修大学文学部 教授）

「全国公共図書館協議会 公共図書館における読書バリアフリー全国実態調査報告」

【報告】原田 敦史（堺市立健康福祉プラザ視覚・聴覚障害者センター）

「全国視覚障害者情報提供施設協会 点字図書館等におけるアクセシブルな書籍等の提供体制及び製作状況に関する調査研究報告」

【パネルディスカッション】「二つの実態調査から見えてくる日本の障害者サービスの現状とこれから」

司 会 佐藤 聖一（日本図書館協会障害者サービス委員会委員長・埼玉県立久喜図書館）

パネリスト 野口 武悟（専修大学文学部 教授）

原田 敦史（堺市立健康福祉プラザ視覚・聴覚障害者センター）

成松 一郎（有限会社読書工房）

テーマ：② 図書館の読書バリアフリーを推進するための基本資料発表

読書バリアフリー法では、地方公共団体に「読書バリアフリー計画」を策定するよう定めている。この計画を策定する際に参考にしていただけるよう、障害者サービス委員会では「地方公共団体において『視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画』を策定するための指針」を作成した。この指針について解説を行う。

また、当委員会では、この指針と合わせ、何をどの程度実施していれば障害者サービスを行っていると言えるかを、職員、施設、資料、サービスなどについて「障害者サービス基準」を作成した。この基準について発表・解説を行う。

【基調報告】佐藤 聖一（日本図書館協会障害者サービス委員会委員長・埼玉県立久喜図書館）

「障害者サービスのこの 1 年と読書バリアフリー基本計画の策定状況調査について」

【報告】杉田 正幸（国立国会図書館関西館図書館協力課）

「図書館利用に障害のある人々へのサービス(障害者サービス)基準 公共図書館編」について

【報告】小原 亜実子（大阪府立中之島図書館）

「地方公共団体において読書バリアフリー計画を策定するためのガイドライン」について

第 11 分科会 資料保存

テーマ：いつの間に！カビで慌てないために

資料保存においてカビは資料の敵であり、一度発生したカビを抑制するには相当な労力が必要となる。カビ被害に悩む図書館はこれまでも多かったが、新型コロナウイルスの影響で休館していたためにカビ発見が遅れたり、換気のために窓を開けたことによってカビが発生したりと、今までカビとは無縁だった図書館でも被害が報告されている。基調講演では、カビとは何か、空調の停止や外気の取入れはカビの発生とどう関係するのか、といったカビの基礎を、事例報告ではカビ被害にあった3館の図書館から事例を、そして最後に具体的な処置について解説する。カビの正しい知識を身につけ、事例を共有し、自館のカビ対策の参考にしてほしい。

【基調講演】佐藤 嘉則（東京文化財研究所）

「カビの基礎」（仮）

【事例発表】能勢 美紀（アジア経済研究所図書館）

「アジア経済研究所図書館のカビ被害と対策」（仮）

【事例発表】角張 亮子（大東文化大学図書館）

「図書資料のカビ被害と対策：大東文化大学 60 周年記念図書館の事例報告」

【事例発表】山崎 美和（東京国立博物館）

「東京国立博物館資料館のカビ被害と対策 事例報告」

【実 演】川越 和四（一般財団法人環境文化創造研究所）

「図書館の現場（図書館員）におけるカビ処置の注意点と予防」

第 12 分科会 出版流通

★ライブ配信（Zoom）★

テーマ：北米の公共図書館におけるマンガとラノベの所蔵

北米における日本産マンガとラノベの受容、マンガのインターネット公開と著作権などについて、三人の専門家からの報告を聞く。

2000 年代から北米において日本産マンガ及びライトノベルの受容が広がってきている。その提供は、公共図書館においても盛んなようだ。日本では、マンガとライトノベルの図書館所蔵は、大きく宣伝されていないものの、静かに浸透している。一方で、出版関係者によるインターネット経由でのマンガ提供の試みに並行して、海賊版対策も喫緊のものとなっている。これらの図書館での提供についてどう考えるべきか。本分科会を通じて、マンガ及びラノベの図書館所蔵について、日本の図書館関係者と情報共有する。

【基調報告】椎名 ゆかり（デジタルハリウッド大学）

「北米における日本産マンガとラノベの受容」（仮）

【事例報告】佐藤 美佳（J コミックテラス）

「マンガ図書館 Z の運営」（仮）

【事例報告】大谷 康晴（青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授）

「公共図書館におけるラノベ・マンガ所蔵とその論理」

第 13 分科会 多文化サービス

テーマ：多文化共生社会と図書館 ―群馬大会から 20 年―

群馬県の公共図書館の多文化サービスの取り組みは常に先進的であった。2002年の第88回全国図書館大会・群馬大会では、大泉町立図書館の多様な多文化サービスの実践報告があった。既に1997年には群馬県立図書館から「図書館職員ハンドブック：外国人対応マニュアル」8か国語対応の冊子が作成されていた。

あれから20年、日本に在住する外国人は増加し、出身国はより多様になっている。群馬県で2度目の開催となった今年、この20年間の群馬県の多文化共生の姿をさまざまな現場で活躍されている講師の方に報告して頂く。

基調講演では、多文化共生の場で重厚な活動を続けている講師を迎えて、多文化共生と図書館をそれぞれの視点で考えていきたい。

【基調講演】榎井 緑（大阪大学特任教授）

「多文化共生の現状と図書館：リテラシーの視点より」

【事例報告】那珂 元（常葉大学）

「多文化共生プロジェクト活動」（仮）

【事例報告】和田 吉浩（上毛新聞社）

「群馬の多文化状況」（仮）

【事例報告】（講師調整中）

「群馬の図書館状況について」（仮）

第 14 分科会 健康情報

★ライブ配信（Zoom）★

テーマ：ウィズコロナ時代のこころといのちの支援を考える（仮）

平成 28 年(2016 年)に自殺対策基本法が改正され、全ての都道府県及び市町村が「都道府県自殺対策計画」又は「市町村自殺対策計画」を策定することとされた。同計画は当該自治体が全庁的な取り組みとして行うこととされている。

また、昨今、長引くコロナ禍での自殺、虐待、メンタルヘルスの悪化などが社会問題とされている。この状況下において「こころといのちの支援」に関する国や地方行政、医療機関等の取り組みを学ぶとともに、図書館が取り組めることを考える機会とする。また、図書館での取り組み事例について報告する。

【基調講演】三浦 侑乃（群馬県こころの健康センター 医長）

【事例報告】高麗 友理子（白河市立図書館）

【事例報告】永尾 理恵子（宝塚市立中央図書館 館長）

【事例報告】宮本 悠子（久留米市立中央図書館）

※ 各登壇者の演題は調整中。おって大会ウェブサイトでご案内します。

【質疑応答、意見交換】

第 15 分科会 非正規雇用職員問題

テーマ：非正規雇用職員の現在

各館種の図書館の非正規雇用職員の割合は、ここ20年増える一方である。

2020年度より会計年度任用職員制度が始まり、公共図書館や学校図書館職員の非正規雇用職員の多くがこれに移行した。しかし待遇の低さ、雇用の不安定さなどの問題は未だ解決されていない。また、大学図書館や専門図書館でも状態の深刻さは同様である。

今回の分科会では、改めて現在の日本全体の非正規雇用の状況を俯瞰するとともに、公共・学校・大学などの館種ごとの状況を把握する。今後の非正規雇用職員問題をどう改善、解決していったら良いのか、現状に即した新たな道筋を探って行きたい。

【基調講演】西野 史子（一橋大学大学院社会学研究科 教授）

「日本における非正規雇用の現状」（仮）

【事例報告】小形 亮（日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会）

「公共図書館の非正規雇用職員の現状」（仮）

【事例報告】高橋 恵美子（日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会）

「学校図書館の非正規雇用職員の現状」（仮）

【事例報告】佐藤 千春（東京大学附属図書館）

「大学図書館の非正規雇用職員の現状」（仮）

【講演者、報告者によるディスカッション】★ライブ配信（Zoom）

第16分科会 市民と図書館

テーマ：住民が望む図書館の実現に向けて

2004年に「図友連」が発足して18年目。これまでの活動から、文部科学省・総務省への公立図書館の振興を求める要望書提出と大臣・事務担当者との面談、国会議員への要請行動、指定管理者制度導入図書館の検証、団体会員の地域での活動などの活動を報告し、問題を提起する。

東日本大震災やCOVID-19、ウクライナ侵攻など人類の知恵と結束が問われる状況が続いている。知の拠点である図書館に何ができるのだろうか。主権者である市民は、図書館に何を求め、何をすることができるのだろうか。市民がめざす図書館の実現に向けて今後どのように活動していけばいいのか、参加者とともに考えていきたい。

【基調講演】船橋 佳子（「図書館友の会全国連絡会」事務局長）

「会の概要と要望書・要請行動・プロジェクト班の取り組みについて」

【基調講演】尾形 陽子（「多賀城市立図書館を考える市民の会」）

「指定管理者制度導入図書館の事例を検証する（武雄市、多賀城市など）」

【事例報告】鈴木 真佐世（「町田の図書館活動をすすめる会」副代表・東京都）

「町田市立図書館の現状と市民の活動：鶴川地域図書館の廃止計画と指定管理者制度の導入をめぐる」

【事例報告】北村 恭子（「図書館の指定管理に関する学習会」代表・栃木県）

「宇都宮市立図書館(館別)の貸出数やレファレンス件数、12年間の推移を見える化してわかったこと」

【事例報告】和田 安弘（「図書館とともだち・鎌倉」代表・神奈川県）

「司書採用を30年ぶりに復活させた市民運動」

第108回全国図書館大会群馬大会（オンライン大会）お申込みのご案内

1 参加申込について

- 参加費：3,000円／群馬県内2,000円（オンライン大会の視聴、大会記録誌等）
- 申込期間：令和4年（2022年）7月5日（火）～9月9日（金）
- 申込方法：下記の群馬大会ウェブサイトから承ります。（電話・FAXでのお申込みはできません）
《全国図書館大会群馬大会ウェブサイト》 <https://g-regi.jp/108th-taikai/>
※ 申込後、受付完了メールを送付しますのでご確認ください。

2 参加費のお支払いについて

- 支払期限：令和4年9月22日（木）（期限内にお支払いが確認できない場合、申込を取消いたします）
- 支払方法：クレジットカード決済又は銀行振込（振込手数料は、参加者様ご負担でお願いします）

《振込の場合》 ゆうちょ銀行 029（ゼロニキュウ）店
種別番号：当座 0099218 株式会社 klar （カブシキガイシャクラール）
《振替の場合》 口座番号：00280-7-99218 株式会社 klar

3 参加申込の変更・取消について

- 手続方法：下記のメールにて承ります。（電話・FAXでは、受付できません）
《メール（運営代行業者）》 108th-taikai@g-regi.jp
※ 変更・取消の受付は、9月22日（木）までとさせていただきます。これ以降の変更・取消及び参加費の返金には応じかねますので、あらかじめご了承ください。

4 大会動画の配信内容について

- 全体会：主催者あいさつ、祝辞、基調報告、記念講演
- 分科会：全16分科会（動画配信、又はZoomによるライブ配信）

5 大会動画の配信期間及び視聴方法について

- 配信期間：令和4（2022）年10月6日（木）～11月30日（水）
- 視聴方法：インターネット視聴（改めて、大会ウェブサイト上でご案内申し上げます）
※ 大会視聴用ID・パスワード等は、9月30日（金）までに参加申込の際にご登録いただいたメールアドレスあてにお送りする予定です。

6 大会記録誌について

- 参加申込の際にご登録いただいた氏名・住所あてに、令和5年3月下旬までに送付します。

7 個人情報のお取り扱いについて

- 参加申込でお預かりした個人情報は、本大会の運営に関する目的以外では使用いたしません。

【お問い合わせ先】

第108回全国図書館大会群馬大会実行委員会事務局（受付時間：月曜・休館日を除く 9:00～17:00）

〒371-0017 群馬県前橋市日吉町1-9-1 群馬県立図書館内

TEL：027-231-3008 FAX：027-235-4196

メール：taikai@library.pref.gunma.jp（大会の企画、内容等に関すること）

メール：108th-taikai@g-regi.jp（参加申込、申込変更や取消に関すること）